



たいしも通信

つい先日まで連日30℃超、いつまで夏が続くのやら、などと思っ
ていたら、いつの間にか11月で今年も終わろうとしています。そ
のような中、この「たいしも通信」も50回を迎えることができ、
半強制的とはいえ、読者がいてくださることに感謝です。さて今
回は戦跡シリーズから一旦離れ、最近の防衛関連ニュースとし
て、海南島事件についてお送りしたいと思います(戦跡ネタが尽
きたと言えない事もない)。

◆キューバ危機以来!?

皆さんはキューバ危機をご存知でしょうか?これは1962年10
11月にかけて、ソ連が米国の目と鼻の先であるキューバに核ミサ
イル基地を建設していることが発覚、米国がカリブ海でキューバ
に対して海上臨検を実施、米ソ間の緊張が一気に高まり、核戦争
寸前にまで達した一連の出来事のことです。海南島事件はそこま
でではないにしろ、米中の軍用機衝突により、米中間の緊張が高
まった事件です。

◆海南島事件とは

事件は2001年4月に海南島付近の南シナ海上空で、米国と中国の
軍用機が空中衝突したものです。中国側の戦闘機JHは2つに折れ
て墜落し、パイロットは行方不明。米国側の電子偵察機EPも機体
各部の損傷に加えプロペラ1つを失い、中国の海南島飛行場に緊
急着陸し、搭乗員24名が中国に身柄を拘束され、この件により、
一時的に米中関係の軍事的緊張が高まることとなりました。この
事件について、自分は同じような任務に従事していたため、とて
も注意深く推移を見守っていた記憶があります。

◆なぜ今、海南島事件なのか

キューバ危機は昭和32年、海南島事件も平成13年と10年以上

も前の話となりますが、なぜ今その話をするのかというと、実は
今年の10月終わりに気になる記事を見つけたからです。それは、
米南西部のアリゾナ州にあるピマ航空宇宙博物館に、新しい収蔵
機が到着したとSNSで報告があり、これこそがEP-3E シリアルナンバ
ー166511、海南島事件の当該機だったのです。

EP-3EはP-3型哨戒機の派生機で、P-3Cなら数百機を保有する米国にあ
つても、10数機程度しかないとみられており、何よりもその性能
や任務は秘中の秘で、それが博物館に展示されるのは異例のこと
だと言えます。

◆海南島事件からの考察

皆さんはどの国の軍隊が怖いですか? 怖いという意味にもよ
りますが、自分は指揮・統率が取れていない軍隊だと考えます。
本件は鈍重な大型機の直前を戦闘機が無理に横切つて接触した
と考えるのが一般的で、問題はその原因がパイロットの勝手な行
為なのか、上層部がやれと命じたのか、という点です。

また、当時自分が特に関心を持っていたとはいえ、周囲を見る
と、逆に日本人の関心の低さに率直に驚きました。平成の世にテ
ロでもなく戦争ですらない状況下で、中国軍に拘束された搭乗員
の拷問に近い処遇の記録(パイロットのインタビュー記事あり)
等、かなり怖い事が、日本のすぐ近くで起こっているのに対し、
日本は驚くべき無関心だと感じました。

▼編集後記▲▲

緊急着陸後に人民解放軍に拘束され、さすがに殴る蹴るの暴行
はなかったものの、約2週間にわたって睡眠させずに尋問すると
いった内容等がインタビュー記事にありましたが、民間の会社員
に対しても、そのような事が行われていた事があるようですね。
例によつて、内容に関する責任は全て支部長にあり、特に規則
等に定めてあるもの以外は私の個人的見解が色濃く反映されて
いますので、ご意見等ございましたら遠慮なくお知らせ下さい。